

平成29年度第2回秋田県入札制度適正化推進委員会の概要について

1 日時

平成30年1月23日（火） 午後1:30～3:10

2 場所

ルポールみずほ

3 出席者

菅原佳典委員長、及川洋委員、千葉一明委員、相馬智子委員

4 議事

(1) 報告事項

【県発注工事に係る入札・契約手続の運用状況について】

委員：警察本部の発注した横手警察署建築工事が、当期間の予定価格が最大であったとの説明だったが、このような高額な工事こそが総合評価落札方式を適用すべきではないのか。

事務局：総合評価落札方式は4千万円以上の全ての工事に適用させる訳ではなく、県が発注する4千万円以上の工事の50%程に適用することを目標として行っています。

また、高額な工事であれば総合評価落札方式を適用しなければならないという訳でもなく、発注時期や工種等によっても適用すべきか否かが部局入札審査会等において判断されております。

委員：県が総合評価落札方式を導入した際には、価格のみならず施工の確実性や安全性を重視すべき工事について適用するといった始めたと聞いているが、このような工事こそ適用すべきであったのではないのか。

事務局：総合評価落札方式は県の制度上、試行段階であり、適用するかどうかは、最終的には発注部局の入札審査会等の判断としています。

委員：完全週休2日制モデル工事というのはどういう工事か。

事務局：県では担い手確保育成のため、若手の技術者や女性の技術者の建設業への入職を促進するため、当該工事の『完全週休2日制モデル工事』の他、『女性技術

者登用モデル工事』、『ICT活用モデル工事』の3種類のモデル工事を平成29年度から実施しております。その中の『完全週休2日制モデル工事』というのは、社会において完全週休2日制が普及してきている現状から、建設業界にも完全週休2日制が浸透し、若い方が入職して定着するような労働環境の普及に向けて、平成29年度は12件のモデル工事を発注しております。

(2) 審議事項

【抽出案件（北秋田地域振興局農林部：上川沿地区 農地集積加速化基盤整備工事）】

委員：総合評価落札方式の評価項目の加点状況について、多くの評価項目が0点となっている業者が、入札者が1者のみだったからといって落札できてしまうというのは、総合評価落札方式の制度としていかがなものか。

北秋田：総合評価落札方式の評価項目は、技術管理課で定めた簡易型の標準的な評価項目となっています。あくまでもプラス評価するもので、項目の中で加点すべき点がないからといって、落札者にふさわしくないという制度ではありません。確かに1者だけであれば比較のしようもないが、参加者が複数であれば、加点される項目が多いほど点数が高く有利となります。

委員：総合評価落札方式の評価項目の中に、『若手又は女性技術者の育成』という項目があるが、前からあった項目か。

事務局：『若手技術者の育成』という評価項目に平成29年度から『女性』を追加しています。ただし、この項目は選択型で全ての総合評価落札方式に適用される訳ではありません。

また、評価項目や配点などについては、今後も社会情勢の変化に合わせて、適宜見直しを行うこととしています。

委員：工期の設定について、今回の抽出事案の2件は応札者の数が対照的で、応札者の少ない農地集積加速化基盤整備工事も、冬に施工しない工期設定をしていれば、応札者が増えるものではなかったのか。

北秋田：当該工事は、田んぼの地中に暗渠排水を設置する工事であるため、耕作者の農耕に支障にならないように、稲の刈り取り後から次の年の春までに完成しなければならぬ工事であります。

また、籾殻の調達も必要なことと、田面を重機が歩くことから多少の積雪がないと、田んぼを荒らしてしまう懸念もあり、このような工期として発注しています。

【抽出案件（秋田港湾事務所：臨海部土地造成工事）】

委員：総合評価落札方式を適用しなかった理由として、早期に着手しなければならないとのことであり、横手警察署の建設工事に関する質問の回答の中でも、総合評価落札方式を適用すると契約まで日数がかかるというような説明があったが、適用しなかった場合とではどれくらい違うものなのか。

事務局：工事の種類や規模によっても変わってくるため、一概に何日長くなるとは言えませんが、長くなる場合の例としては、簡易型以外の施工計画型と技術提案型では、評価項目を決定するまでに技術専門部会の専門委員の意見を聞くなど、発注までの準備に時間を要しています。

秋田港：総合評価落札方式の簡易型には、適用できる工事種別が設定されており、当該工事の種別となる港湾工事が設定されていないため、総合評価落札方式を適用するとなれば、技術専門部会を経て評価項目を決定する必要が生じます。

委員：当該工事の落札率の比較として、平均落札率89.2%という数字を出されたが、その算出根拠は何か。

秋田港：平成29年度上半期で当該工事と同じ入札参加可能業者となる、秋田地域振興局建設部で一般土木工事のA級業者を対象に発注した工事の平均落札率です。

委員：当該工事に対しての入札者の7割の17者が4,400万円台で入札しているのを見ると、この工事は4,400万円はかかる工事だと思われる。それに対し、落札者は100万円も低い額で入札したとなれば、手抜き工事なども想定され施工後の品質が心配されるが、どのように検査をしているのか。

事務局：監督員が施工途中の各段階で確認や検査を行っていることから、そのような心配はないと考えられる。また、入札額については、各企業の経営方針や受注計画があると思いますが、当該工事においては資材購入する必要がなく、重機を保有していて現場に搬入すれば準備完了となる工事であり、その所有状況などの違いにより入札額に差が生じてきたのではないかと推測されます。

5 その他

委員：（質問ではなく個人的な意見として）総合評価落札方式では、一定の金額を下回る低い額で入札すれば落札者になれないという制限があるが、評価項目の方には何の制限もなく、加点が0点でもいいとなっている。その評価部分にも何点以上の加点がなければ、とかの縛りを設けてはどうかと思う。